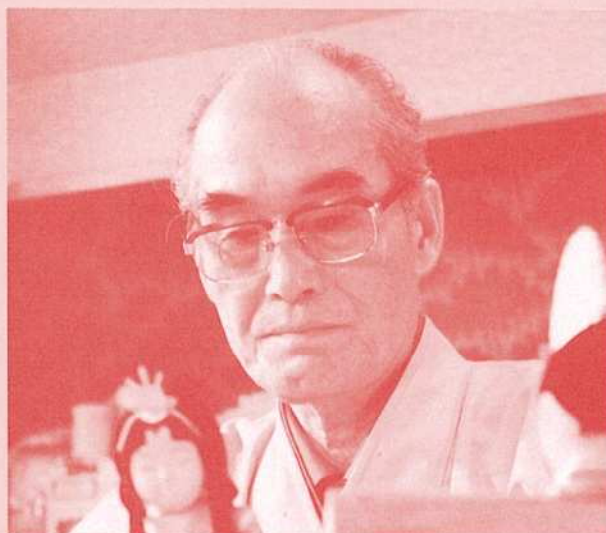


伝統に生きる

—あらかわの工芸技術—



き め こみ にん ぎょう
木目込人形

かき ぬま つね きち
柿沼常吉
(号・東光)

(平成5年度作品)
16mm映画・ビデオ
カラー・18分

プロフィール

住所、荒川区西尾久2-1-5。

大正9年(1920)、埼玉県生まれ。

平成4年度、荒川区指定無形文化財保持者に認定される。

旧制中学卒業後の昭和10年、初代・真多呂(旧下谷区御徒町)に師事、木目込人形づくりを学んだ。柿沼常吉さんは、その伝統的な技法を守りつつ、独創的手法である「二衣重技法」も駆使して、創造性豊かな人形づくりに励む。雛人形をはじめとする各種の人形には、「親が子の無事と成長を祈る気持は、いつの世も変わることがない」という柿沼さんの愛情が溢れている。

通産大臣指定の江戸木目込人形伝統工芸士に認定されている。

企画 東京都荒川区教育委員会・製作 毎日映画社

用具・工具

彫刻刀(20本位)、丸刀、ヤゲン、ヤスリ、刷毛(地塗り刷毛・中塗り刷毛・上塗り刷毛など)、ブラシ、曲り尺、面相筆、目打ち、へら、木目込べら、こて、カマ(人形の型)、生麩糊、桐粉、硫黄、粘土、胡粉、ニカワ、など。

工程 —— 立ち雛一對の場合 ——

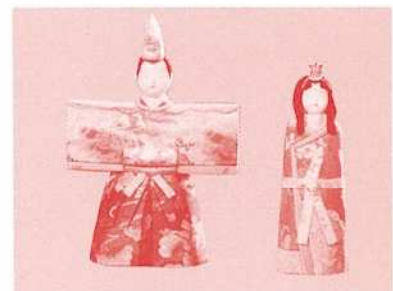
- (1)〔原型作り〕 粘土で作った人形の型を木枠の中に入れ、硫黄・アルミニウムを流し込んで人形の型を取る。この型をカマという。
- (2)〔カマ詰め〕 桐粉に生麩糊を混ぜて作った桐^{とうも}塑^そを、カマの中に詰めて、ボディ^{たい}ー^ーを作る。
- (3)〔ヌキ〕 カマからはみ出た部分を竹べらできれいに取り除いた後、カマからボディ^{たい}ー^ーを取り出す。
- (4)〔生地ごしらえ〕 ボディ^{たい}ー^ーを乾燥させた後、凸凹やひび割れは、竹べらを使って桐^{とうも}塑^そで補修したり、ヤスリできれいに補修して、完全なボディ^{たい}ー^ーに仕上げる。
- (5)〔胡粉塗り〕 胡粉をニカワで溶かして、ボディ^{たい}ー^ーに塗る。
- (6)〔筋彫り〕 胡粉が乾いたら、布を木目込んでいくための筋(溝)を彫る。
- (7)〔木目込み〕 筋(溝)に糊を入れ、型紙に合わせて切った布地を目打ち・木目込べらを使って溝へ入れていく。
- (8)〔面相描き〕 頭師^{かぶし}が、面相筆を使って、人形の頭^{かぶ}の目・口・髪の生え際などを描き上げる。
- (9)〔結髪〕 その頭に黒い絹糸を糊付けし、髪を結び上げ、まげを作る。
- (10)〔頭の取り付け〕 木目込みを終えたボディ^{たい}ー^ーに、向きや角度をよく考えて、頭や手を取り付ける。
- (11)〔仕上げ〕 髪の毛をブラシで整えたり、不備な点を直す。



(用具・工具)



(筋彫り)



(完成した「立ち雛」)

利用される方は ☎ **3891-4349**

この記録〈16ミリ映画〉、〈ビデオテープ〉は、荒川区立荒川図書館で貸し出しています。貸し出し期間は、1回5日間です。お気軽にご利用ください。

※16ミリ映画は、団体登録と16ミリ映写機講習修了者が操作することが必要です。